

乳児期から全身症状が強かった小児アトピーの経過 (2歳男児)

症例 ID：001-02-HHa | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後2～3か月頃から耳切れと顔の湿疹が出始めました。薬局で勧められた外用薬を使用すると翌日に皮膚がきれいになりましたが、後からステロイドが含まれていたことを知りました。

4か月健診でアトピーを指摘され、顔だけだった症状は全身へ広がりました。6か月頃からさらに症状が強くなり、病院でステロイド外用薬を複数処方されました。1歳頃には全身の湿疹、浸出、掻破が強く、食事療法や入浴剤なども試しましたが、十分な変化は得られませんでした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期に薬局で勧められた外用薬を使用し、後にステロイド含有を知りました。病院でもステロイド外用薬を複数処方されました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	生後数か月頃から来院前まで断続的な使用歴があります。
中止時期	松本医院での治療開始後、ステロイドを使用しない方針となりました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後2～3か月	来院前	耳切れと顔の湿疹が出ました。薬局で勧められた外用薬を使用し、翌日にきれいになりました。
4か月頃	来院前	アトピーと指摘され、顔から全身へ症状が広がりました。
6か月頃	来院前	症状がさらに強くなり、病院でステロイド外用薬を複数処方されました。
1歳頃	来院前	全身の湿疹が強く、食事療法や入浴剤などを試しましたが、十分な変化はありませんでした。
松本医院受診後	治療開始	漢方薬、漢方風呂、外用薬による治療を開始しました。掻いてよいと説明され、家族の対応にも変化がありました。
治療経過中	リバウンドを含む経過	かゆみや掻破が続き、家族にとっても負担の大きい時期がありました。
その後	経過後	アトピーと喘息の症状が落ち着き、来院はなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、乳児期から1歳頃にかけて顔から全身へ症状が広がり、浸出や掻破が強かった時期です。治療開始後も、かゆみと掻破により家族の不安が大きい時期がありました。

5. 困りごと

- ・乳児の全身症状が強く、家族が自分を責めるほど心理的負担がありました。
- ・掻破を止める対応が親子双方の負担になっていました。
- ・食事療法や入浴剤など、複数の方法を試しても十分な変化が得られませんでした。

6. 経過のまとめ

乳児期から耳切れ、顔湿疹、全身症状が続き、来院前にはステロイド外用薬の使用歴がありました。治療開始後もかゆみや掻破を伴う経過がありましたが、家族は対応方法を変えながら通院を続けました。

その後、アトピーと喘息の症状は落ち着き、継続的な来院はなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。